

YANAGIBASI

柳橋小学校 学校だより 令和6年 臨時号

大谷選手の「野球をやろうぜ！」を受けて

右に示した谷川俊太郎さんの「二月のうた」を読みました。すると、大谷翔平選手の顔が浮かび、いつ、どんなきっかけで「日本の小学生にグローブを送ろう。」と考えたのかなと思いました。もし、大谷選手がこの詩を読んだとしたらと、想像してみました。

詩：「私は地上で何をしているんだろう」

大谷：「野球選手としてがんばっているなあ」

詩：「あなたに花を贈ることができる」

大谷：「そうだ、この野球の楽しさを、日本の子どもたちにも届けたい。」

詩：「それは歴史とは何のかかわりもないけれど」

大谷：「自分にできることをやってあげよう」

「野球の楽しさを自分だけでなく、日本の子どもたちにも分けてあげたい」

詩：「それだけの事だけど」

大谷：「グローブをプレゼントするだけだけどね。」

「でも、それだけに終わらず、これが未来へとつながればいいな」

二月のうた 谷川俊太郎

鳥は空を飛んでいる
魚は水に泳いでいる
私は地上でいったい
何をしているだろう

そう

私はたとえばあなたに
花を贈ることができる
鉢植えの黄水仙を

うす曇りのこの午後に
あなたをみつめて
それは歴史とは
なんのかかわりもない事だけれど

それはまったく
それだけの事だけれど

市長さんと一緒に「野球をやろうぜ！」を実践

2月8日(木)、体育の授業で大谷翔平選手から寄贈されたグローブを使って、大和市長さんと子どもたちがティーボールを楽しみました。市長さんの明るい声が空高く響き渡りました。子どもたちと一緒に走り、ボールを投げ、バットを振り、野球を楽しんで頂きました。市長さんと一緒にティーボールをする機会などめったにありません。「ティーボールの楽しさは、職業、場所、年齢、上手・下手は関係ない」と感じました。「ふれあい」のよい機会となりました。大谷選手のグローブは、「それだけ」に終わらず、これからいろいろな方々の「ふれあい」のきっかけになっていくと思います。大谷選手がグローブに込めた願い、「このグローブが、私達の次の世代に夢を与え、勇気づけるためのシンボルとなることを望んでいます。それは、野球こそが、私が充実した人生を送る機会を与えてくれたスポーツだからです。」をしっかり受け止め、「野球をやろうぜ！」の機会を大切にしていきたいと思っています。

Let's
baseball !! play



プロ野球選手にとって、成績、体調、コンディション、トレーニングなど、自分のことで精いっぱいのはずです。そんな中で日本の子供達のことを忘れず、全国の小学校にグローブを送り、野球の楽しさを共有しようとする姿は、感謝よりも感動です。大谷選手は「他人の喜びは自分の喜び」と感じる人だと思いました。本当にありがたいことです。

